

平成22年度 学校自己評価表

中長期目標(学校ビジョン)
1. 鳥取県内有数の進学校としての地位の確立 平成24年以降、国公立大学・難関私大現役合格率6割以上確保 進研模試、校外模試において学年平均偏差値60以上確保 2. 「学力面で優れた生徒 = 人格的にも優れた生徒」という湯梨浜学園の生徒像確立

今年度の重点目標
1. 学習指導の充実と進路指導の強化 ・第3期卒業生の進路指導に全力を注ぎ、国公立・難関私大合格15名以上を目指す。 ・各学年、校外模試における全国偏差値平均を3ポイントアップを図る。 ・家庭学習の充実 2. 学校運営の充実 ・各分掌の活動を充実させ、他の分掌と連携を図りながら校務が機能的に運営されることを目指す。 ・教育施設の充実をはかり、教育効果が発揮されるよりよい教育環境を整える。 3. 生活指導の徹底と教育相談の充実 ・「あいさつ」「返事」「掃除」の3つの柱の推進 ・個別面談などを通し、生徒理解に努め、教育相談、スクールカウンセラーとの連携で悩みや相談の解決にあたる。 4. 人権教育の推進 ・あらゆる場面、あらゆる教科で、すべての先生が人権教育の視点に立った教育を行う。

評価項目	具体的項目	中間評価	達成状況(年度末)と次年度の課題	評価
1. 学習指導の充実と進路指導の強化	教務力の向上	C	生徒アンケートによると、教師の授業に対する熱意は中/高とも3.5/3.6である。3.8を目標としている。研究授業、授業公開により、指導力の向上をさらに強化していきたい。	C
	国公立・難関私大合格15名以上		国公立7名、難関私大1名に終わる。達成できず。	D
	校外模試3ポイントアップ	C	7月と1月の進研模試の比較では、高1生は2.7アップであり、ほぼ目標を達成できた。高2生は横ばい状況にある。ただ、県内進学校における相対的位置はアップしてきている。	B
	進路指導の適切な提供	B	進路だよりを対象学年別に発行、進路LHRも充実を図ったが、保護者まで情報が十分に伝わっていないのか、保護者の満足度にはバラツキがある。	B
	家庭学習の充実	C	家庭学習の習慣に対するアンケート結果は、中/高の生徒は、3.1/2.9、保護者は3.3/3.0と満足できる状況ではない。家庭とも連携し、受動的学習環境からの脱却が急務である。	D
2. 学校運営の充実と教育環境の整備	各分掌活動の充実・連携	C	分掌会議が定期的に行われるなど、分掌内は充実し、組織的な運営が次第になされるようになった。今後の課題は、他の分掌との連携である。	B
	教育施設の充実	C	特別支援、教育相談の環境は整った。体育館屋根の補修は急務である。来年度1学級増えるため、普通教室の余裕がなくなることも選択教科の実施面で課題となる。	D
3. 生活指導の徹底と教育相談の充実	生徒との教育相談の機会の充実	B	各担任とも個別面談の機会を増やし、臨床心理士によるカウンセリングも実施されるようになったが、アンケートによると思春期の生徒たちにとってはまだ十分な状況ではない。専門家にまかせるのではなく、全教員のカウンセリングマインドの修得が必要である。	B
	「あいさつ」「返事」「掃除」の徹底	B	生活指導の3本柱が明確にされたことにより、徹底させようとする気運が職員、生徒会、双方で高まってきた。継続指導が重要。	A
4. 人権教育の推進	教職員の人権意識の向上	C	教育者として人権教育の必要性は認識できるようになった。人権教育LHRなどの充実も図られている。しかし、さらに人権意識の向上を図り、生徒が精神的に安心して過ごせる教育環境作りを進めていかなくてはならない。	C

(注) アンケートは5段階評価です。(5:大変あてはまる 4:ややあてはまる 3:ふつう 2:ややあてはまらない 1:あてはまらない)
 模試の数値は、ベネッセの進研模試全国偏差値です。